

「農業科作業学習」（１学年）指導略案

単元・題材名	「野菜の選別（じゃがいも）」	生徒	農業科 １年B組 ７名
		場所	温室（作業場）
日時	平成２８年 ９月２９日（木） ３・４校時（１０：３５～１２：１５）	指導者	MT：津村 理子 ST：工藤 大地、近藤 千晶
単元の全体目標	ジャガイモの栽培から販売までを経験し、職業自立に向けた基礎的・基本的な能力を高めることができる。		
本時の目標	- 規格分けのグラムを量り、６規格に選別することができる。 - 仲間と話し合い、協力して作業に取り組むことができる。		

過程時間	学習活動	生徒の活動	教師の活動	教材・教具
導入 ５分	挨拶 本時の確認	○農業科A組の日直の司会進行で挨拶をする。 ○本時の授業内容を確認する。	○日直に司会を行わせ、挨拶をさせる。 ○本時の授業の内容を説明する。 <協同学習の要素や配慮事項> - 本時のタイムスケジュールを提示する（配慮⑪） ○選別の確認項目 - 出荷規格について説明をする。 - グラムの以上、未満の確認をする。 ２人または３人組を話し合いで決めさせる。 - 道具の準備をさせる。 - ジャガイモの選別を丁寧に行わせる。	
展開 ８５分	作業の取り組み方について 選別作業	○本時の授業内容を確認する。 ○ジャガイモの選別方法を確認する。 ○分からないことは、すぐに質問をする。 ○互いに確認しながら選別を行う。 ○バットがいっぱいになったらコンテナに移し替える。 ○１０分前、５分前になったら時間担当者が全体に知らせる。 ○コンテナを見ながら、出来高を確認する。	<協同学習の要素や配慮事項> - 仲間と話し合いを行い、ペアを作る。（②） - 道具の準備で互いに声を掛け合う。（②，④） - 分け方の判断がつきやすいように配慮して説明を行う。（配慮☆） <協同学習の要素や配慮事項> - 互いに確認しながら丁寧に選別をする（②） ○作業を終了させる。 ○時間を意識して作業を行わせる。	はかり（３台） バット（７枚） コンテナ（６個）

授業参観者アンケート

授業者：津村 理子

協同学習（各要素）についての評価

①互恵的な相互依存関係

②対面的なやりとり

- ・ 2人もしくは3人組みでのチームに分かれて活動をしていましたが、声掛けの頻度に偏りが目立ちました。3人組みのところが特に、仲間同士ではなく、対S Tとの関わりが多いように感じたので、仲間同士での確認ができたなら良かったと思います。
- ・ 初めの方は全く会話がなかった生徒同士が、授業終了後の前にはお互い大きな声で声掛けをするようになっていました。
- ・ グループに分けるとときにスムーズに話し合いができていて良かったと思いました。
- ・ ジャガイモの選別もグループ（チーム）で話し合いながら協力してできていて良いと思いました。
- ・ 2人または3人組みでグループになってジャガイモの選別を行っていたが、生徒同士より生徒と教師での関わりが多かったです。
- ・ じゃがいもの計量をする際に、ペアになった仲間と確認して行えていたので良かったです。
- ・ 計量後のじゃがいもを運ぶ際に声掛けができていました。
- ・ グループで協力してじゃがいもの重さの確認を二人の目で行っていて良かったです。
- ・ 分からないことがある場合、まずは生徒同士の確認が見られて良かったです。
- ・ 選別をする際に、仲間で話し合っ作業を進めており良かったと思います。選別をする時間が長くなるにつれ話し合いが深まっていました。

③個人としての責任

- ・ 一人ひとりが役割を理解して作業できていました。
- ・ 順番にはかりに乗せて重さを量ることで、「③個人としての責任」が果たされていたと思います。

④協同学習スキル

- ・ グループに分かれていたが、仲間に聞かずにすぐに近くの先生に聞きに行ってしまうのがもったいないように感じました。仲間と協力するなら、まずは周りの人に確認したほうが良いと思いました。
- ・ 選別する際、すぐS Tに聞いている生徒がおりましたので、まずは仲間で話し合うようにすると生徒のコミュニケーション能力につながると思いました。
- ・ 声が全体的に小さいと感じました。（報告時）
- ・ 学習指導案に「協同学習の要素や配慮事項」が明記されていて、どのようなことに留意して授業を展開しようとしているのかが分かりやすく、良かったです。しかし、協同学習の「④協同学習スキル」は「道具の準備でお互いに声を掛け合う。」だけではないはずです。選別作業が始まってから、「はかりの皿の真ん中にじゃがいもを置くように。」との指示がありました。初めに、はかりの使い方と目盛りの読み取り方、規格に沿った分け方までの一連のスキルを明確にして最初に伝え、選別作業中に話し合うスキルも明確化しておいて、必要に応じて助言することが望ましいと思います。

⑤チームの振り返り

- ・作業終了後に、各グループで本日の内容の振り返りを行い結果、課題を確認し合っていて良かったです。

協同学習全体を通して

- ・グループに分かれて全体での終了の見通しはあったが、グループでの見通しは明確ではなかったように思います。
- ・グループに分かれてじゃがいもの選別を行っていて、協力体制ができていたと思います。
- ・じゃがいもの選別をする際に、生徒の活動内容が結果的には一人で重さを量り、選別というシステムだったので、例えば、流れ作業に対して1、ハネ品を探す人 2、重さを量る人 3、コンテナに入れる人などにすると声の掛け合う場面や確認を生徒同士で行う機会が増えたのではないかと思います。
- ・協同学習の要素として、「①互恵的な相互依存関係」、「③個人としての責任」の要素が明記されていません。指導案の構成上、足りない点があるかどうかについては、事前によく検討することが必要です。
- ・協同学習の授業として成立させる上で、必要な要件が満たされておらず、協同学習を用いる成果が上がりにくい授業となっています。
- ・協同学習の観点をさらに明確化させて、授業展開の工夫を行っていくと、今後はより一層深まると思います。

授業を通しての感想（良かったところ・改善点など）

- ・やるべき量が明確で分かりやすかったです。
- ・MTは生徒の失敗に気づき、すぐに全体に共有していたので、同じ失敗を防ぐことができていました。
- ・前半、教師の目は届いておらず、選別が間違ふことがありました。目盛りを読むことが苦手な生徒については、教師が近くで見ていることが必要だったように感じました。
- ・報告の声が小さいと教諭から言われていましたが、普段から指導してできているのに、今日だけなのかなと美術とはまた違う一面が見れて良かったです。
- ・じゃがいもの選別の区分表は、人数分準備して量りの横などに提示したほうが効率良かったのではないかと思います。
- ・ベルトが緩すぎる生徒がいたので、安全管理として身だしなみの確認が必要だと感じました。
- ・指導略案でSTに名前があった1名の先生が授業にほとんど関与していませんでした。
- ・じゃがいもの傷か穴か見分けるポイントなどを的確に伝えてあげていた点は良かったです。
- ・声が全体的に小さいと感じました。（報告時）
- ・じゃがいもの選別で使用していた置き場所は、生徒にとって分かりやすかったです。
- ・じゃがいもの選別のときに、生徒の確認に職員が判断出来ない場面があったので、職員全員が判断出来たら良かったと思いました。
- ・生徒が選別したじゃがいものを間違ったコンテナに入れていた様子が見られたので、最初の方は特に職員で確認する必要があったかと思いました。
- ・タイムスケジュールを掲示したり、じゃがいもの規格の分類表を掲示したりしており、視覚的に理解することができていた良かったと思います。
- ・生徒から「だんだん表を見なくても何のサイズか分かるようになってきました。」という声が聞かれ、学習が定着していると感じました。
- ・どこに何を置けばよいかがとても分かりやすかったです。

- ・ハネ品のじゃがいもに対する扱い方が気になる生徒が何名かいました。ハネ品といっても、B級品として売る可能性があるため、どのような物でも丁寧に扱ったほうがいいように感じました。
- ・生徒が間違っコンテナに入れた様子を見て、すぐに全体指導したことはタイムリーな指導でした。
- ・退室時の「失礼します。」「失礼しました。」の言い方が生徒によって異なり、指導の必要性を感じました。
- ・生徒への指示は分かりやすくした方が良いと思います。例えば、2つの作業台に生徒2名と生徒3名が集まって作業する場面の指示では、「(指さして) 二人、二人」「(指さして) 三人」と伝えました。生徒の中には理解できない者もありました。「この台のはかりには、1つのはかりに2名ずつ。」「この台のはかり2台には3名ではかる。」など言語的な手がかりをより伝えた方がよいと思います。早口になるとより分かりづらくもなりますので、話す速さにも注意が必要です。
- ・じゃがいもの規格で「L～190g未満120g以上」としていましたが、「120g以上190g未満」の方が一般的であり、また分かりやすいと思いますが、特段の理由がない場合には、一般的な示しの方が、生徒の実態に合っていると思います。
- ・選別後のじゃがいもを見ると、「皮むけ」したじゃがいもが入っており、作業の精度の向上が必要であると思います。作業の精度は社会に出たときに必ず求められる部分です。
- ・「冠水」にはルビがあった方がよいです。

【全員授業研究 振り返りレポート】

- ① 協同学習の要素を取り入れた授業についての感想。
- ② 授業全般を通して、良かったところ、改善すべきところ。

単元・題材名	「野菜の選別（ジャガイモ）」	生徒	農業科1年B組 生徒7名
		場所	温室（準備室）
日時	平成28年9月29日（木）3・4校時	授業者	津村 理子
導入では「（2）対面的なやりとり」を意識した2人又は3人組のペアを話し合って作るように設定した。生徒たちで責任をもって組めるように自由に組ませたが、能力に差が出てしまった反省がある。はかりを使って重さの確認をしたり、重量別で6規格のコンテナに振り分けたりした。役割分担をしたことや選別の重さの表を作成して分かりやすい取り組みができるように配慮した。反省としては、活動中に何グラムがどのサイズなのか、戸惑う様子が見られた生徒に対してどの程度まで口出しをして良いのか、私自身に迷いが生じてしまった。また、いつもの雰囲気と違っていたことを敏感に感じ取りってしまい、「緊張してしまいました。」「声が小さくなってしまいました。」と反省する生徒の声があった。日常の授業から、緊張する場面設定をしながらも集中できるような声かけをすることが課題となった。 「（3）個人の責任」では、重量を量ったジャガイモを間違いなくコンテナに入れるように指示した。早い段階で間違いを発見し、注意を促したところ、気を付けるようになった。 「（4）協同学習スキル」の【コミュニケーションスキル】では、「グループごとに責任をもって作業を終える」を協同学習のポイントとして設定した。理解の早いグループとやや低いグループで作業に差が出てしまったが、どのグループも真面目で真剣に取り組んでいたのが良かったと思う。 「（5）チームの振り返り」では、授業始めに組んだ仲間同士の反省の時間を設けた方が良かった。時間内に作業を終えることができて良かっただけに満足せず、今以上のものを求めて行くように仕掛けていきたい。 協同学習の要素を意識した授業を行うことで、一人ひとりの所属意識を高めることができたように感じた。今後も、集団の力を高めるために、学級での話し合い活動を大切に、意図的な発問をして、思考させたり、発言をさせたりして、互いを理解できる授業の実践を積み重ねていこうと思う。			

「農業科作業学習」（1 学年）授業略案

単元・題材名	玉ねぎの選別	生徒	農業科 1 年 A 組 8 名
		場所	2 号ビニールハウス
日時	平成 28 年 9 月 29 日（木）3～4 校時	指導者	MT：西脇 功二 ST：成田 直浩、近藤 千晶
単元の全体目標	玉ねぎの栽培から販売までの経験し、職業自立に向けた基礎的・基本的な能力を高めることができる。		
本時の目標	・規格分けの型を使用して、4 規格に選別することができる。 ・仲間と話し合い、協力して作業に取り組むことができる。		

過程時間	学習活動	生徒の活動	教師の活動	教材・教具
導入 5 分	挨拶 前時の復習 本時の学習内容について	○農業科 A の日直の挨拶をする。 ○葉、根切り作業での取り組みを振り返る。 ○本時の説明を聞く。	○前時の復習をする。 ○本時の説明をする。 ＜協同学習の要素や配慮事項＞ ・本時のタイムスケジュールを提示する。（配慮①） ① 2 人で 1 組のペアを話し合いで決める。 ② 道具の準備をする。 ③ 玉ねぎの選別をする。 ④ 出来高の確認と作業の取り組みの振り返り。	タイムスケジュール
展開 8 5 分	作業の取り組み方について	○ペアを決め、道具の準備をする。 ○玉ねぎの選別のやり方を確認する。 ○わからないことを質問する。 ○目標出来高を知る。	○ペア決めと道具の準備について伝える。 ＜協同学習の要素や配慮事項＞ ・仲間と話し合いを行い、ペアを作る。（②） ・道具の準備でお互いに声を掛け合う。（②④） ○玉ねぎの選別のやり方を説明する。（4 回） ① 自助具を使って玉ねぎの大きさを四つの規格（SS、S、M、L）に分け、規格ごとのバットに入れる。 ※分け方の判断がつきやすいように配慮した説明をする。 ② バットが一杯になったら規格ごとのコンテナに入れに行く。 ※コンテナには持ち手の部分まで入れたら、新しいコンテナを用意し入れる。 ＜協同学習の要素や配慮事項＞ ・コンテナにマークを付け、視覚的に分かりやすくする。（配慮①） ○目標出来高を伝える。 ＜協同学習の要素や配慮事項＞ ・全員で協力して銀台に載る玉ねぎの選別を終わらせる。（①）	バット（4×4） 自助具 8 コンテナ

	・選別作業	○個人の目標を知る。 ○お互いにペアで確認し合いながら選別する。 (3回ずつ) ○教師に報告し確認してもらう。 ○選別作業をする。 ○バットが一杯になったらコンテナへ入れに行く。 ○作業を止める。 ○コンテナを見ながら出来高を確認する。	○個人の目標を伝える。 <協同学習の要素や配慮事項> ・ひもで区切りを設け、一人一人の役割を視覚的に提示する。(③、配慮①) <協同学習の要素や配慮事項> ・お互いに確認し合いながら選別する。(②、配慮②、配慮⑤) ○3回ずつ6個の選別が終わったペアの確認をする。 ○バットの玉ねぎを時折確認する。 ○作業終了を伝える。 ○出来高を確認する。	
まとめ 10分	・振り返り	○ペアで話し合いを行い良かったこと、悪かったことを振り返る。	○出来高について振り返りを行う。 <協同学習の要素や配慮事項> ・目標出来高の達成、未達成について何が良かったか、悪かったかペアで振り返る。 (⑤) ○取り組みの評価をする。	

(凡例)「前時の復習…」～授業の流れの骨子、 「○互いに教え合う…」～協同学習に関わる教師の活動

※ (①) … 互恵的な相互依存関係 、 (②) … 対面的なやり取り 、 (③) … 個人としての責任
(④) … 協同学習スキル (⑤) … チームの振り返り

※ (配慮①～⑪) … 配慮事項については、マニュアルP 8～10参照。

※ (配慮☆) … オリジナルの配慮事項。

授業参観者アンケート

授業者：西脇 功二
協同学習（各要素）についての評価
①互恵的な相互依存関係
②対面的なやりとり ・ペアになって玉ねぎの選別を行うことで、生徒同士声を掛け合う様子がありました。(対面的なやりとり) ・仲間でペアを決める面や、道具の準備、選別の面で要素が含まれていました。今後につなげることができ授業だったと思います。 ・生徒はコンテナがタマネギで一杯になったときに、コンテナを所定の場所に積み上げました。しかし、コンテナに貼ってあるラベルが反対側になっていたため、それを直そうとしました。そのときに、教師は「いいよ、いいよ。先生がやるよ。」と声を掛けて、生徒が直そうとする行動を手助けしました。この場合の扱いは、生徒が他の生徒に声を掛けて手伝ってもらい、コンテナを直すことが望ましいと思います。「仲間同士、援助したり、教え合ったり、議論したり、励ましたり、誉めたりし合うことで生徒がお互いの（学習の）成功を促進し合う『対面的なやり取り』」をこのような場面で設定することが大切です。生徒の活動への扱い方が義務の養護学校に在籍する生徒には合いますが、単置高等部の当該生徒の実態には応じていません。働く力を付けさせるためには、もっと生徒の活動レベルを上げていく必要があります。 ・生徒同士の対面的なやりとりの場面で、声が小さい場面がありました。相手によく伝わるよう声の大きさについて助言があった方がよいと思います。
③個人としての責任 ・玉ねぎの選別を行う際、すずらんテープで区切っていたことで、自分が選別する個数の見通しをもつことができ良かったと思います。 ・グループに分かれてそれぞれの担当を明確にして行っていて良かったです。
④協同学習スキル ・分からないことがある場合、職員に聞くことはいいが、その前段階にグループで確認し合ったりして、それでも分からなかったときに職員に聞くという流れの方が、望ましかったと思います。 ・学習指導案に「協同学習の要素や配慮事項」が明記されていて、どのようなことに留意して授業を展開しようとしているのかが分かりやすく、良かったです。しかし、協同学習の「④協同学習スキル」は「道具の準備でお互いに声を掛け合う。」だけではないはずです。規格に沿った計り方のスキルを明確化し、規格別に分ける際の着目点について話し合う場面を用意して生徒が気付くようにさせ、「相手の話を聞いて疑問点を尋ねる。」、「(農業科固有のスキルの) 自助具を使った選別では、〇〇に目を向けて量る。」などの協同学習スキルを指導案に明記できると良いと思います。
⑤チームの振り返り ・生徒同士で振り返りは普段の授業では行っていないため、今後も継続して行い、自己評価と他者評価についても合わせて指導できたら良いと思います。また、作業日誌なども使用し、ペアでの振り返りがあ

ると良いと思います。

- ・作業終了後に、各グループで本日の内容の振り返りを行い、成果・課題を確認し合っていて良かったです。

協同学習全体を通して

- ・ペア決め、確認のし合い、ペアでの振り返りなど、組み込んでいる内容はとても良いと思いました。ただ、生徒に任せ切りの部分が多く、『できる子が決める』『内容にばらつきのある反省』『声掛けの少なさ』が気になりました。
- ・今回の学習内容で協同学習の要素を多く取り入れていくのは、難しいと思いますが、一人ひとり黙々と作業進め、集中できている様子でした。
- ・グループで協力するというよりは個人で作業していることが多く感じました。
- ・バットの置き方を生徒同士で見させて真似させていたのが良かったです。しかし、全グループが同じ置き方で、サイズの順番もバラバラで並べていました。自分たちが作業しやすいように道具の配置を考えさせてもいいのかなと思いました。
- ・作業を行うペアを話し合いで決めていたが、自然と作業能力の差が出ないようなペアになっていたのがすごかったです。
- ・協同学習の観点をさらに明確化させて、授業展開の工夫を行っていくと、今後はより一層深まると思います。

授業を通しての感想（良かったところ・改善点など）

- ・それぞれのペアに作業場所を伝える際、「そこそこそこそこ」という指示であったため、生徒が自分の場所を理解することができていませんでした。
- ・玉ねぎの選別の仕方を説明する際、 $S \rightarrow S \rightarrow M \rightarrow L$ の順で説明していたため、次が何のサイズか分かりやすかったですが、一部の生徒にはイメージの付きにくい説明であったと思います。その後に再度その生徒に説明すべきであったと感じました。
- ・「コンテナに丁寧に入れるように。」と説明がありましたが、理由を伝えていませんでした。また、雑にいられた生徒に対して、個別の指導ではなく全体での指導しかありませんでした。
- ・明確な説明が少ないため、生徒もなんとなくで取り組んでいることが多いように感じました。初めての活動については特に具体的に説明して頂けたらと思います。
- ・指導すべきポイントを見逃しているように感じました。事細かく今は伝える、伝えなければいけない時期だと思います。
- ・コンテナにマークを付け視覚的に分かりやすくする工夫は良いと思いました。
- ・「本日の学習予定」は良いと思いました。特に、作業は口で予定を言うことが多いので、視覚で手順を示すのは良いと思いました。ただ、一年生の漢字力がわからないので「どこまで読めているのかな。」と誤ってしまいました。（今年は読める生徒が多いですか。）
- ・美術とはまた違う一面が見れて良かったです。
- ・玉ねぎの大きさが分からないときは、ペアで確認するように助言していたが、ほとんどすぐに教師に確認していたので工夫が必要です。
- ・指導略案でSTに名前がある先生1名が授業にほとんど関与していませんでした。
- ・玉ねぎの選別をするための自助具があり、実際に規格に分けやすかったと思います。また、二人一組で規格の確認をしながら作業を行うことは、今後身につける必要があるコミュニケーション能力につながるの

だと思いました。

- ・玉ねぎの選別で使用していた置き場所は生徒にとって分かりやすかったです。
- ・作業途中に生徒が玉ねぎを雑に扱っている様子を見てから、扱い方の説明をしている様子が見られました。商品になるものなので、取り扱いについては最初にしっかり説明しておく良かったと思います。
- ・職員の動きが生徒の質問の対応以外は何かしている様子があまりなかったので、作業の補助や見本として作業をするなどの動きがあっても良かったと思います。
- ・話を良く聞き、返事や報告がお互いにできている様子があり、普段から意識させているのが分かりました。
- ・様々なところで指示があったため、生徒はスムーズに動けていました。しかし、自主的に動く場面が少なかったように感じました。
- ・生徒は真剣に選別作業に取り組んでおり、日頃の指導振りがうかがえました。
- ・生徒がバットを持っていくときには、ペアの生徒には声を掛けるように意識付ける必要があります。
- ・ある生徒がタマネギを落としましたが、誰もこのことについて指導がなされていませんでした。
- ・ある生徒は自分の足がバットにぶつかって位置がずれましたが、足でバットを元の位置に戻しました。生徒の一つ一つの行動についての的確に判断し助言する必要があります。商品を入れているバットを足で直すことは、就労の場ではあり得ないことと思います。
- ・「玉ねぎを4規格に選別することができる。」が本時の目標でしたが、選別後の玉ねぎを見ると、LサイズとMサイズがLサイズのコンテナに混在して入っていました。この点では、生徒によっては目標達成ができていません。生徒の様子を見ると、規格ごとの分け方に確信がもてない生徒がいました。その都度、助言をしていましたが、結果としては異なるサイズの玉ねぎが混在する結果になりました。仕分け方について丁寧に指導し、生徒が確信をもてるまで練習後に仕分け作業に入る方が良いと思います。また、教師は仕分け作業を観察し、サイズに疑問がある玉ねぎについては、その都度声がけをして修正を求める必要があります。

【全員授業研究 振り返りレポート】

- ① 協同学習の要素を取り入れた授業についての感想。
- ② 授業全般を通して、良かったところ、改善すべきところ。

単元・題材名	作業 「玉ねぎの選別」	生徒	農業科1年生徒8名
		場所	2号ビニルハウス
日時	平成28年9月29日(木)3、4校時	授業者	西脇 功二
導入の「②対面的なやりとり」でのペア決めの話し合いでは生徒に任せきりの部分が多く、できる生徒が決めるという展開になってしまった。話し合いの手順を事前に伝えるなど、展開するうえでの準備に課題があったと思う。また、「①互恵的な相互依存関係」では2人組でのペアのコミュニケーションや責任に重きをおいてしまい学習グループ全体としての本学習の意義を意識させることができていなかったと思う。 道具の準備ではお互いのペアで話し合いをしながらどのグループも自主的、協力的に動くことができていたと思う。また、他のグループの様子を見たり、わからないことを聞く場面も見られ「④協同学習スキル」のコミュニケーションスキルから、わからないことや確かめたいことを質問する様子も見られた。 選別の展開の部分ではペア同士で確認したり、わからないことを話し合う場面を設定していたが、教師に確認することが多くなってしまった。玉ねぎの大きさの判断がつかないときの自助具を使っての具体的な判断の仕方について丁寧に説明する必要があったと思う。 導入の段階ですずらんテープで区切りを作り、「③個人としての責任」の一人一人の役割や見通しをもたせることはできていたと思う。また、ペアで終わらせる量を話し合いで決めることも個人としての責任やペアとしての目標を意識させる本授業のねらい通りに展開できた。 「⑤チームでの振り返り」では、ペアごとに取り組み内容（良かったこと、悪かったこと）などを話し合った。全員が自分の与えられた選別を終わらせることができたため、良かったことについての反省のみになってしまった。もっと工夫できたことなど話し合いを深める場面を設定しても良かったと思う。 協同学習を意識した授業を展開する上で、話し合いを成功させるための支援の仕方について工夫が必要であることを感じた。今後は、話し合いの偏りを減らす工夫や多様な意見を出させる工夫、話し合いが深まる工夫を考え、実践していきたいと思う。			

「農業科作業学習」（２学年）指導略案

単元・題材名	学校祭生産品販売の準備	生徒	農業科２年（８名）
		場所	作業実習室３
日時	平成２８年１１月１６日（水） １～４校時	指導者	MT：高田 のぞみ ST：外山 陽子、関口 浩介
単元の全体目標	・学校祭生産品販売に向けて、準備することができる。		
本時の目標	・生産品販売の準備を、自分たちで役割分担しながら進めることができる。		

過程時間	学習活動	生徒の活動	教師の活動	教材・教具
導入 １０分	挨拶 前時の反省 本時の確認	○挨拶をする（日直） ○前時の反省を振り返り、本時の目標に生かす。 ○本時の活動リストを見て、販売準備完了までの見通しをもつ。	○前時の復習をする。 ○本時の活動リストを提示する。	活動リスト
展開 ①製品製作 ９０分	各グループの製品を、包装まで完了させる。 片付け、掃除をする。	○花グループ、ろうそくグループ、かごグループそれぞれに分かれ、製品を完了させる。 ○早く出来上がったグループは、他のグループを手伝う。 ○終わったら全員で片付けをする。	○それぞれが自分の役割を果たせるよう活動をサポートする。(③) ・花G…関口 ・ろうそくG…外山 ・かごG…高田 ○どのGの手伝いが必要か考えられるよう働きかける。 ＜協同学習の要素や配慮事項＞ ・普段から行っていることが同様にできるように働きかける。(配慮☆)	生産品リスト 各Gで必要な素材や用具
②製品PR文 ５０分	３グループに分かれ、製品のセールスポイントを考える。	○各グループから一人ずつ分かれて別の３グループを作る。 ○製品の特徴をプリントの空欄に記入していく。 ○グループごとに発表し全体共有する。 ○グループで製品のPR文を考える。 ○グループごとに発表し全体共有する。	○製品の担当生徒がまんべんなく入るように配慮する。 ○生徒の考えをG内でまとめ、全体共有できるように働きかける。(②) ＜協同学習の要素や配慮事項＞ ・個人で意見を出し合うことと、全体に発信する作業を交互に行う。(配慮⑦⑫)	製品PR記入用プリント
③製品POPポスター ４０分	廊下掲示用のPOPちらしを作る。	○ちらしの作り方を知る。 ○３グループで手分けをしながらちらしを３０枚作る。	○ちらしの作り方の例を伝える。 ○互いに教え合うように伝える。(②④) ＜協同学習の要素や配慮事項＞ ・生徒が作りやすいちらし例を視覚的に提示する。(配慮⑩)	ちらし例 絵の具、用紙等

整理 10分	まとめ・振り返り 次回の確認 挨拶	○授業者からの話を聞く。 ○次時の内容の確認をする。 ○挨拶をする。	○本時のまとめを伝え、次時の確認をする。	

（凡例）「前時の復習…」～授業の流れの骨子、 「○互いに教え合う…」～協同学習に関わる教師の活動

※（①）… 互恵的な相互依存関係 、 （②）… 対面的なやり取り 、 （③）… 個人としての責任
（④）… 協同学習スキル （⑤）… チームの振り返り

※（配慮①～⑰）… 配慮事項については、マニュアルP8～10参照。

※（配慮☆）… オリジナルの配慮事項。

授業参観者アンケート

授業者：高田 のぞみ

協同学習（各要素）についての評価

① 互恵的な相互依存関係

- ・学校祭製品の仕上げということで、生徒の目的意識も高く取り組めていたのではないかと思います。
- ・学校祭の販売に向けた準備として、製品の特徴を整理し、グループごとの発表、全体共有、製品のPR文を考えるという流れが大変良かったです。
- ・生徒が課題解決できる環境設定があると良いと思います。

② 対面的なやりとり

- ・展開の製作過程で作業が終わったら、片付けする場面では生徒同士の積極的なやりとりが行われており、良かったと思います。
- ・掃除のとき、「お願いします。」「ここやってもらっていいですか？」等、声を掛け合いながら、協力してやっていました。
- ・生徒同士で考える、意見交換する場面がもっとあって良いと思います。
- ・グループ活動の、進捗状況を全体に共有していて良かったです。
- ・グループでの話をする内容が統一できていなかったりしていたため、話す内容をあらかじめグループで確認できたら良かったかもしれません。

③ 個人としての責任

- ・③について、生徒に作業内容や目的を聞いても答えられない生徒が多く、意図や意味を普段の授業の中で意識付ける必要があると感じました。
- ・③についてノルマ（数や時間）などを設定することで、もっと責任感が出ると感じました。
- ・展開の作品製作の一部しか参観できなかったのですが、一人一人の役割が明確で、生徒の実態に合った作業内容だと感じました。真剣に取り組んでいる様子が見られました。

④ 協同学習スキル

- ・協同学習の要素の「④協同学習スキル」は、より具体的な内容が示されると良かったです。
- ・製品の特徴を記入し、伝えるという場面では自分の考えをしっかりと伝えることができていたと思います。
- ・「④対面的なやりとり」は、何度か見られましたが、ペアでのやりとりに限定されていたように感じ、他の作業種を行っている生徒への意識が少なく感じました。
- ・大人への依存が強いです。（生徒へ質問したらまず大人の顔を見る、言われたことのみやっており、工夫がほとんどない。）
- ・物の貸し借りとき、あまりにもフランクでした。
- ・返事、報告、挨拶など、確実に行うよう指導されていました。

⑤ チームの振り返り

協同学習全体を通して

- ・学習指導案に「協同学習の要素や配慮事項」が明記されていて、どのようなことに留意して授業を展開しようとしているのかが分かりやすく、良かったです。
 - ・協同学習の要素について、より具体的な活動として明確化されると良かったです。
- (例)「どこのグループの手伝いが必要か考えられるよう働きかける。」
- 「生徒の考えをグループ内でまとめ、全体共有できるよう働きかける。」
- 「働きかける」の具体的な内容はどのようなものか。

授業を通しての感想（良かったところ・改善点など）

- ・生徒の意見や考えを良く引き出す言葉がけで、展開されていると思いました。一人一人の生徒が発問に対し、良く考えながら授業に取り組んでいると思いました。
- ・生徒が意見を発言しやすい雰囲気、製品にも興味をもって取り組んでいると感じました。
- ・生徒の実態に合っている作業種と感じました。
- ・作業と仕事との関連付けを意識的、意図的に行う必要があると感じました。特に、作業中の姿勢、環境整備（個人での）、製品（売り物）であることの意識、言葉の使い方（TPOの使い分け）などの意識がもっと欲しいです。
- ・将来の生活を見据え、実習での経験・環境などをもっと取り入れてほしいと感じました。
- ・曖昧さを多く感じました。（まあまあ、だいたい、など。）
- ・何のために今の取り組みを行っているのか理解をさせられたら、もっと生徒自身が工夫したり、精度を上げたりできるのではないのでしょうか。
- ・褒める場面が全くありませんでした。仕上がりなど褒める場面設定してはいかがでしょう。
- ・生徒から「匂いはどのくらい続くか。」について話題になったとき、生徒に考えさせるよりも、説明が先になっていました。どのような説明が適切なのか、生徒に考えさせる部分をもっとあった方が良かったです。
- ・「ラベルを取って、壁にぶすってやっても雰囲気良いかもね。」は、もう少し適切な表現をモデルとして示した方がよいと思います。
- ・ラベル貼りが目分量。売り物という意識をもたせるなら貼る場所を固定するなど統一できるともっと良いです。（ガイド利用など）
- ・個人個人の作業場所があまりにも繁雑。製品にするものと、ゴミになるものが一緒になってしまっていました。切ったら切りっぱなしでした。
- ・一人一人の役割が明確で、生徒の実態に合った作業内容であったと感じました。真剣に取り組んでいる様子が見られました。

【全員授業研究 振り返りレポート】

- ① 協同学習の要素を取り入れた授業についての感想。
- ② 授業全般を通して、良かったところ、改善すべきところ。

単元・題材名	作業学習「学校祭生産品販売の準備」	生徒	農業科2年生徒8名
		場所	作業実習室3
日時	平成28年11月16日(水)1～4校時	授業者	高田 のぞみ
① 協同学習の要素を取り入れた授業についての感想 ・学校祭生産品販売のための製品作りという大きな目的がある中での1コマだったため、生徒はより自主的に作業を頑張ることができた。ただ、参観者の評価を見て、改善すべき要素・見逃している要素があったので、今後の授業に少しずつ取り入れ、改善を図っていく。 ・「互恵的な相互依存関係」については、学校祭の製品の仕上げということで生徒の目的意識も高く取り組むことができた。 ・「対面的なやりとり」では、グループの中で協力することを働きかけたため、生徒はお互いに声を掛け合いながら作業を進めることができた。 ・「個人としての責任」では、各グループごとに完成させなければならない製品個数を提示し、自分のやるべきことが分かり、責任を持って取り組んでいたと思う。ただし、慣れている内容であれば気持ちに余裕ができて活動もよりしっかりできるが、あまり慣れていない活動ではまだ責任感を感じさせる活動にまで至っていない。 ・「協同学習スキル」では、コミュニケーションを積極的に行うよう普段から働きかけてはいたが、具体的に何をどのように伝えと良いのか、もう少しかみ砕いた状態で方法を伝え、指導していくべきであった。 ・「チームとしての振り返り」については、グループ活動の進捗状況を全体に共有できたことが良かった。 ② 授業全般を通して、良かったところ、改善すべきところ ・良かったところは、3グループによるそれぞれの分業体制や生徒の作業に対する目的意識、挨拶、報告、返事などの言葉遣い、対面的なやりとり、製品に関する生徒の個人としての責任、役割の明確化、グループ内の意見交換、チームの振り返りなどが効果的にできた。 ・改善すべきところは、環境の整理（道具、作業場所など）、グループ内から他グループへの意見交換、指導者の働きかけ方の具体化、話し合い内容の整理、大人への依存にならないような生徒の自信力向上、進捗状況の共有、時間に対する見通し、作業内容の意図・意味説明、治具の開発などをもう少し丁寧に取り組んでいかななくてはならない。			

「農業科作業学習」（３学年）授業略案

単元・題材名	シクラメンの管理作業（５）	生徒	農業科３年 ８名
		場所	温室
日時	平成２８年 １１月 ２９日 （火）５～６校時	指導者	MT：小原 政住 ST：住谷 亮 近藤 千晶
単元の全体目標	・シクラメンの枯れ葉取り、葉組、灌水を出来るようになる。 ・手先を使う作業になれペアで確認し合い、チームワークを高めることができる。		
本時の目標	・シクラメンの管理作業ができる。・道具を使い作業が出来る。 ・仲間と話し合い、協力・確認をして作業に取り組むことができる。		

過程時間	学習活動	生徒の活動	教師の活動	教材・教具
導入 ５分	挨拶 前時の復習 本時の学習内容 について	○農業科３年の日直の挨拶をする。 ○本時の説明を聞く。	○前時の復習をする。 ○本時の説明をする。 ＜協同学習の要素や配慮事項＞ ・本時のタイムスケジュールを提示する。 (配慮①)	ピンセット ジョウロ バケツ 液肥
展開 ８５分	・シクラメンの 管理作業	○ペアを決め道具の準備をする。 ○シクラメンの葉組・枯れ葉取り・芽かき・灌水のやり方を確認する。 ○わからないことを質問する。	○ペア決めと道具の準備について伝える。 ＜協同学習の要素や配慮事項＞ ・仲間と話し合いを行い、ペアを作る。(②) ・道具の準備でお互いに声を掛け合う。(②④) ○シクラメンの管理方法のやり方を説明する。 ①ピンセットを使い枯れ葉を取り、芽かきをし、灌水を行う。 ※枯れ葉や芽かきでの判断がつきやすいように配慮した説明をする。丁寧にいう様に指導する。 ○授業時間内に温室にあるシクラメンとミニシクラメンの手入れを終わらせる。 ＜協同学習の要素や配慮事項＞ ・全員で協力して平台に載るシクラメンとミニシクラメンの管理作業を終わらせる。 (①)	ピンセット ジョウロ バケツ 液肥

	・シクラメンの 管理作業	○ペアの目標を知る。 ○お互いにペアで確認し合いながら管理作業する。 ○教師に報告し確認してもらう。 ○管理作業をする。 ○作業を止める。 ○管理作業の終わったシクラメンをペアで確認する。	○ペアの目標を伝える。 <協同学習の要素や配慮事項> ・一つ一つ丁寧に作業を進める。一人一人の役割を視覚的に提示する。(③、配慮①) <協同学習の要素や配慮事項> ・お互いに確認し合いながら管理作業をする。(②、配慮②、配慮⑤) ○3鉢出来たら教師に確認をする。 ○枯れ葉の取り忘れなど無い様に作業を行う。 ○作業終了を伝える。 ○管理作業の確認する。	ピンセット ジョウロ バケツ 液肥
反省 10分	・振り返り	○ペアで話し合いを行い良かったこと、悪かったことを振り返る。	○作業について振り返りを行う。 <協同学習の要素や配慮事項> ・目標達成、未達成について何がよかったか、悪かったかペアで振り返る。(⑤) ○取り組みの評価をする。	

(凡例)「前時の復習…」～授業の流れの骨子、「○互いに教え合う…」～協同学習に関わる教師の活動

※ (①) … 互恵的な相互依存関係 (②) … 対面的なやり取り (③) … 個人としての責任
 (④) … 協同学習スキル (⑤) … チームの振り返り

※ (配慮①～⑪) … 配慮事項については、マニュアルP8～10参照。

※ (配慮☆) … オリジナルの配慮事項。

授業参観者アンケート

授業者：小原 政住
協同学習（各要素）についての評価
①互恵的な相互依存関係 ・シクラメンの管理作業を各工程に分担するのではなく、一人当たりが担当するシクラメンの個数を決めて管理作業全般を全員で時間内に終わらせるという点に①の要素が見られました。 ・14：30までの活動の目標やノルマが分かりやすく提示されていた点が良かったです。目標が達成された状態がどうなるのか分かりやすい課題設定だったため生徒は活動しやすかったと思います。
②対面的なやりとり ・話し合いをしながらペアを決める時間を作り、ペアで作業することで作業をどう進めるかなど話し合いながら行っていたので、良かったと思いました。 ・道具の準備の際にグループで声を掛け合って準備をしたり、作業中もグループの人とシクラメンの葉取り部分を確認したりと、②の要素を感じました。 ・ペアで活動することを徹底し、生徒もそれを理解していたように見えました。 ・ペアで互いに声を掛け合い、相談し、確認をお願いしていました。 ・ペアでシクラメンの葉取りの部分など、確認しながら話し合っ管理作業を進めることができていたと思います。 ・教員の最終チェック以外は、生徒同士で確認し合うことで②が活動の中に取り入れられており良かったと思います。 ・自然なやりとりでお互いに声を掛け合ったり、相談し合ったりするペアがいました。一方、あまりコミュニケーションがスムーズに行っていない（相談し合ったりするなど）ペアもいましたが、ペアの生徒相互のやりとりを深めるように働きかけた方が良かったと思います。 ・生徒同士のやりとりでも、どのような状態の芽を取るのかについての情報の共有が的確には行われてない様子でした。 ・ペアにしたことで、より作業工程に対して所々不安な点などを相談しながら作業を進めることができるようになっていた所が良かったと思いました。 ・全員で同じ作業をするため、対面的なやりとりが少ないのかと思っていましたが、グループの中で確認をし合ったり、声を掛け合いながら作業のやりとりをしたりする場面が多々見られました。小原先生が日頃から基礎的な知識を教えているからこそ、生徒同士で確認し合ったりができるのだと思いました。改めて、協同学習を行うにあたってスキル指導の大切さを感じました。
③個人としての責任 ・ペアで個人として責任をもって作業を行っていたので、良かったと思いました。 ・自分に与えられたシクラメンについて責任をもって管理作業を進めていました。 ・シクラメンの管理方法をほぼ理解しており、どの花を摘んで良いのか自分で判断できていました。

④ 協同学習スキル

- ・協同学習の要素のうち、「④協同学習スキル」が具体的に明記されていて良かったです。
- ・作業中に生徒同士のチェックする場面が設定されていて良かったと思いました。授業のまとめでは指導していましたが、不備があったときに、ペアの生徒同士で確認せずにできていない部分をやってあげているペアもありましたので、できていない部分を教え合うことを作業中随時指導できていればもっと良かったと思います。
- ・ペアになりそれぞれが違った方法で作業を終わらせようと頑張っていたので、良かったと思いました。しかし、その方法が良いのか悪いのかを考える時間があれば、もっと良かったと思いました。
- ・声掛けを積極的にしている生徒としていない生徒のばらつきが目立ちました。集まって聞いている教師からの全体の指示に対して、ほとんどの生徒が返事をしていたのが良かったです。しかし、何気なく教師が言っている全体に対する指示に返事がなかったのが気になりました。
- ・片付けの号令から、すぐに片付けに入れないペアがいました。報告して途中ですぐ止めれるように指導するのか、きりの良いところで止めるように指導するのか、どちらが最適なのか迷いますが、どちらにしても報告は必要ですので、報告するように指導していたので良かったと思います。
- ・生徒同士で様々な確認作業を行う場面において、ごくたまに生徒同士のやり取りの中で言葉がきついことがあったところが若干気になることがありました。

⑤ チームの振り返り

- ・時間がなくてできませんでしたが、どう行えば早く手入れができるのかを全体で発表や感想ができていればもっと良かったと思いました。

協同学習全体を通して

- ・学習指導案に「協同学習の要素や配慮事項」が明記されていて、どのようなことに留意して授業を展開しようとしているのかが分かりやすく、良かったです。
- ・管理作業の中で自分の与えられた仕事を的確に行う力や、協力して道具を準備する機会、その場の雰囲気に合わせて自分の言葉で仲間に伝える場面などがあり、日常生活に必要な力を使う場面設定が良かったと思いました。

授業を通しての感想（良かったところ・改善点など）

- ・シクラメンの配置が、赤、紫、ピンク、白の順に並べた理由を話題にしました。「白は見つけにくいので。」と理由を説明しましたが、生徒の反応を見て意味の理解を促す働きかけを途中で止めました。この場合は、意味を理解できるように補助説明をすることが必要です。
- ・ピンセットを使わないで芽かきをして、取らなくても良い芽を取ってしまった生徒がいましたが、その生徒への働きかけが指導者の説明だけでした。何が分かったのか、生徒に質問するなど、生徒が分かったことを言葉にして言う活動を入れた方がより着実に力になると思います。
- ・身だしなみ、安全面として帽子をかぶっている生徒とかぶっていない生徒がいたのが気になりました。
- ・生徒同士がコミュニケーションをとりながら準備できていたので良かったと思います。
- ・ミニシクラメンの手入れの方法の説明の仕方や演技方が上手いと思いました。
- ・色の濃いミニシクラメンから徐々に難しい白色のミニシクラメンを手入れするように、計画が練られている

たのが良かったと思います。

- ・ 3年生らしい落ち着いた雰囲気を感じました。
- ・ シクラメンは、生徒と先生が愛情を込めて育てている花だということを感じました。
- ・ シクラメンの管理作業のやり方の確認の際に、例として実際に葉取りを行った生徒の判断に対してすぐにその判断を褒めていました。生徒が活動に自信を持って取り組めるよう配慮されている事が感じられました。
- ・ 生徒全員がシクラメンの管理全般を理解することができるように、基本的な管理方法について、教師が作業に入る前に丁寧に生徒全員に確認をしていて良いなと思いました。作業に入った時に、生徒が作業内容をしっかりと理解しているので、より生徒のみでの学習がやりやすくなっていたように感じました。

【全員授業研究 振り返りレポート】

- ① 協同学習の要素を取り入れた授業についての感想。
- ② 授業全般を通して、良かったところ、改善すべきところ。

単元・題材名	総合「シクラメンの管理作業」	生徒	農業科3年生徒8名
		場所	温室
日時	平成28年11月29日（火）5.6校時	授業者	小原 政住
① 今回の授業研に取り込んだ協同学習の「5つの要素」だが、2時間の時間内ですべて行う事は、時間が足りないと感じました。「5つの要素」をいれた略案を作成しましたが、授業を行った感じはすべて不発に終わった感じがしました。研修部だより3号に、特に「④協同学習スキル」を意識してと記載されていたのですが感触は悪かったです。授業参観者アンケートを読んだ感想で1番感じた事は、自分が狙った「5つの要素」と参観された先生方のとらえた「5つの要素」が違った事が印象的でした。自分が狙った要素が違っていたと思いました。良い勉強になりました。 ② 「①恵的な相互依存関係」では、ペアを作りノルマや終了時間を明確にする事が大切だと考えます。 「②対面的なやりとり」において道具の準備や枯れ葉取りの確認があてはまると思います。生徒個々が理解していても、友達に伝える難しさを指導して行かないといけないと思いました。 「③個人の責任」は自分に与えられた内容（管理作業）を責任間を持ち、取り組む事が必要になってくると思います。それを植え付けるには時間がかかると再認識しました。 「④協同学習スキル」を授業に取り入れるには、まず自分が授業の内容・組立・時間配分を完璧にしたうえで発揮されると感じました。「シクラメンの管理作業」は5回目の授業でした。なんとなく時間配分は計算できたので良かったと思います。初めて行う授業ではやりやすさは違うと感じました。改善点は、生徒への説明が的確じゃなかった事です。もう少し誰が聞いてもわかりやすく説明や演じをする必要があると思いました。教材研究をより一層深めて行こうと思いました。 「⑤チームの振り返り」には、最後に時間を取って行う事が出来ませんでした。作業内容が多すぎたと考えます。理想は、作業を行いながら変更点や、やりやすさなどをペアで話しながら作業を行うことだと考えます。 全体を通して、思う事はやはり公開授業なので事前に同じ授業を行い時間や内容の検討が大切だと思いました。④でも書きましたが5回目の授業だったので授業時間は少し足りなかったですが、略案通りに流れました。教科指導における協同学習の難しさを実感しています。			

作業学習（農業科）

協同①ー「互恵的な相互依存関係」

「クラス（班）の全員が課題をクリアする。」、「班で各自が自分の役割を果たし、協力して壁新聞を作る。」など、目標、活動、教材、役割分担、評価や成果（例えばでき上がった作品・製品の他、賞状、達成のご褒美シールなど）などについて互いに協力を必要とするような関係を具体的に書いてください。

- ・収穫や除草を行う際、除草範囲を決め道具などを使い、時間内にグループの目標面積を終える。
- ・タマネギの選別作業において、全員で協力して銀台のタマネギ選別を時間内に終わらせる。ペアでどこからどこまで選別するか作業分担を確認する。
- ・2年生は1年生にプラグトレイの洗い方を教え、3年生は1年生に除雪で使用するスコップの正しい使い方を教えながら、時間内に協力して作業を終わらせる。
- ・作業内容を理解し相談しながら、効率の良いやり方を協力しあって見つける。

協同②ー「対面的なやりとり」

仲間同士、援助したり、教え合ったり、議論したり、励ましたり、誉めたりし合うことで生徒がお互いの（学習の）成功を促進し合う機会を授業場面で設定してください。

- ・道具の正しい扱い方・片付け、準備を仲間と教え合う。
- ・作業学習の内容を毎時間教師から説明されたのを基に各自作業の流れを考え仲間と伝え合う。
- ・各学年やクラス内で作業方法と、手順等を伝え合う。（学校祭・実習期間中の管理）
- ・休憩時間や終業時間の際に、声をかけ合い休憩を取ることができるよう作業の区切りや片付け時間のタイミングを見て促し合う。
- ・2、3年生が1年生に道具の使い方を教えたり、質問に答えたりする。
- ・様々な作物や花の管理方法で学んだことを仲間や後輩と伝え合う。

協同③ー「個人としての責任」

生徒一人一人には個人の責任があり、自分のやるべき役割を果たして個人目標に到達できるように、一人一人の活動や役割を設定して書いてください。

- ・一人一人が播種や鉢上げなど管理作業を行い、販売する。
- ・農業科の作業を適切に行うために、一人一人に体力が備わっているが大切な条件になることを理解する。
- ・一人一人が与えられた作業の意味を確実に覚え、ミスが無いよう正確にやり遂げる。
- ・時間内に終えるため、スコップの使い方やスポンジなど作業道具の使い方を覚え、手際良く作業する。

協同④ー「協同学習スキル」（考えるスキル・集団活動スキル・コミュニケーションスキル、教科固有の協同学習に関わるスキル）

より質の高い協力と学習ができるように、授業で指導する社会的スキルと教科固有のスキルを書いてください。

- ・販売活動を通して、お客さんへの接客や関わり方を考える。（コミュニケーションスキル）
- ・元気の良い挨拶と、報告・連絡・相談ができる。（コミュニケーションスキル）
- ・販売活動を通して生產品がお金に替わることを体験し、作業学習の意味を考える。（考えるスキ

ル)

- ・竹洗いの際に、綺麗に洗えているか確認し合い、仲間からの指摘を受け入れることができる。
(集団活動スキル)
- ・作業中、わからない事は随時仲間と相談し、解決出来なければ教師に聞く。(コミュニケーションスキル)
- ・作物だけではなく廃土山の必要性、畑の状態や管理方法を学び、後輩に引き継いだり質問に答えたりする。(考えるスキル・コミュニケーションスキル)

同⑤ー「チームの振り返り」

どのように援助し合ったり、協力し合ったりしたらチームがうまくいったのかについて、書いてください。

- ・タマネギの選別作業で目標を達成できた後に、何が良かったか、何が悪かったかを話し合い発表し仲間て共有する。
- ・作業学習の取り組みを反省し、次回に生かす。
- ・どの様な手順で作業を行えば効率的に進めるか話し合い、次に同じ作業を行う時につなげるか振り返る。
- ・ポット洗いなど、決められた時間内に洗い終わるか目標個数を決め、終了時間後に目標が達成できたか反省を行う。

成果と課題

- ・生徒が主体的に考えて動くことができるようになってきたが、特定の生徒に偏ることが多いのが課題と考える。
- ・時期により課題が変わるため、随時対応できるように指導する。
- ・自分達の栽培している物の経過を把握し、その場に合った管理方法や手順を指導出来るように教材研究をする。
- ・先輩が後輩に作業方法や手順を教えることで、教える大変さや教える内容の整理、教えることの責任を育むことができた。また、後輩は目上の人に対する礼儀を意識することができた。
- ・時間の意識、目標個数の意識を促すことにより、作業へのプランニングや見通し、自己の実力の具体的な数値化、ノルマ達成の成功体験を向上させることができた。

解決策（解決策の方向性）

- ・グループ編成を行う際ある程度、教師側でグループメンバーを事前に決めておくことが重要だと考える。しかし就労後には、色々な人と関わりを持たなければならないので、様々な人間関係を体験させ、各場面に対応できるようなグループ編成を考える。
- ・作業内容に協同学習の要素を盛り込めるように、創意工夫し作業学習を展開して行く。
- ・意図的に教師の介入を徐々に減らしていき、最終的には自分で課題解決ができるようにする。